

第5回 日本臨床薬理学会 中国・四国地方会を終えて

医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院

梅本 誠治

会期：2021年（令和3年）7月3日（土）

会場：オンライン（Web）開催

会長：梅本 誠治（医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院）

テーマ：令和時代のあらたなレギュラトリーサイエンスの幕開け

1. 開催概要

この度、新型コロナウイルス感染症のパンデミックのため1年間延期となった第5回日本臨床薬理学会中国・四国地方会を、例年どおり、週末土曜日午後の半日として2021年7月3日（土）に“令和時代のあらたなレギュラトリーサイエンスの幕開け”をテーマに、繰り返す新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中、感染対策を考慮し完全Web形式にて開催した（Figure 1）。また、終了後に参加者・期間限定で on demand 聴講できる試みも行った。

2. 特別公演

今回のテーマを基に、特別講演は日本初の産学連携全国がんゲノムスクリーニングプロジェクト SCRUM-Japan において中心的役割を担う一人として活躍されている、広島大学病院がん治療センター 岡本渉先生から“個別化医療としてのがんゲノム医療に関する現状と今後の方向性”について講演いただいた（Table）。最新の情報を含む講演内容に、国立がん研究センター東病院を中心とする産学連携により欧米にも引けをとらない最先端のがんゲノム医療の著しい進歩に驚愕するとともに、患者申出療養への橋渡しや医師主導治験の立案など、患者さんに最新医療を届けようとする使命感が直接伝わる素晴らしい講演であった。また、一方で、その恩恵にあずかることのできる患者さんがいまだ少ない現実もあり、今後のがんゲノム医療の発展から目が離せない状況をタイムリーに実感できた。

3. シンポジウム 1

特別講演に続いて、個別化医療である“がんゲノム医療への医療機関における取り組み”について、今まさに中国・四国地区の多くの医療機関で取り組まれているがんゲノム



Figure 1 ポスター

医療の現状について、がんゲノム医療中核拠点病院、拠点病院や連携病院間の連携・支援体制、保険診療、遺伝子検査への同意と解析結果についてのカウンセリング体制、治療の選択肢など、中国・四国地区のがんゲノム医療の推進役である医療機関から話題を提供していただいた。特別講演の岡本先生にもディスカッションに参加いただき、大変活発な討論が行われた。その内容は地方会に参加された皆様にも直ちに導入できる大変有益な内容であり、中国・四国地区以外の参加者の方からも中国・四国支部の日頃の活動の素晴らしさがわかると好評をいただいた。

著者連絡先：梅本誠治 医療法人光臨会荒木脳神経外科病院 〒733-0821 広島県広島市西区庚午北 2-8-7

TEL：082-272-1114 E-mail：umemoto@arakihp.jp

投稿受付 2021年9月20日、掲載決定 2021年10月5日

ISSN 0388-1601 Copyright：©2021 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics (JSCPT)

Table 第5回日本臨床薬理学会中国・四国地方会 プログラム概要

12:55	開会挨拶 梅本 誠治 (前広島大学病院・医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院)
13:00~14:00	特別講演 「がんゲノム医療：体制構築までの取り組み ~今後の展望」 【座長】森川 則文 (広島大学薬学部 臨床薬物治療学) 【講師】岡本 渉 (広島大学病院 がん治療センター)
14:10~15:40	シンポジウム1 「ゲノム医療・ゲノム解析研究の院内管理体制の再構築と推進—光と影—」 【座長】今村 武史 (鳥取大学医学部薬理学・薬物療法学分野) 石澤 啓介 (徳島大学病院 薬剤部) 【講師】① (中核拠点病院) 「がんゲノム医療中核拠点病院における CRC の役割と取り組みについて」 宮本 理史 (岡山大学病院薬剤部/新医療研究開発センター治験推進部) ② (拠点病院) 「当院におけるがんゲノム医療の現状と展望」 奥山 浩之 (香川大学医学部附属病院 がんセンター) ③ (連携病院) 「がんゲノム医療の実際—連携病院の立場から—」 磯部 威 (鳥根大学医学部内科学講座呼吸器・臨床腫瘍学、先進医療管理センター、 がんゲノム医療センター)
15:40~15:50	公益財団法人臨床薬理研究振興財団 常務理事 池上 卓志
15:50~17:20	シンポジウム2 「医薬品等のレギュラトリーサイエンスの支援体制と働き方改革」 【座長】北原 隆志 (山口大学医学部附属病院 薬剤部) 川本 龍一 (愛媛大学大学院医学系研究科医学専攻 地域医療学講座) 【講師】① 「治験関連文書電磁化システム導入による業務効率化」 黒田 智 (岡山大学病院薬剤部臨床試験支援室、新医療研究開発センター治験推進部) ② 「広島大学病院での必須文書ペーパーレス化の取り組み状況」 藤原 貴浩 (シミックヘルスケア・インスティテュート株式会社) ③ 「働きやすいSMOを目指して」 小林 由樹 (株式会社EP 総合) ④ 「CRCの働き方改革と業務効率化」 橋田 志幸 (鳥取大学医学部附属病院)
17:20	次期会長挨拶 西山 成 (香川大学医学部形態・機能医学講座薬理学) 閉会挨拶 梅本 誠治 (前広島大学病院・医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院)

4. シンポジウム2

さらに、最近の話題として医療現場での大きな課題である臨床研究・治験における“レギュラトリーサイエンスの支援体制と働き方改革”について、アカデミアだけでなく、民間企業であるCRO/SMOにも話題を提供していただいた。多忙な臨床研究・治験支援部門の現状を各施設から情報を提供いただき、業務の効率化だけでなく質・データの信頼性確保など、働き方の進むべき方向について活発な討論が行われた。CRO/SMOからは、日頃アカデミアだけの内輪の会となりがちな本支部会と異なる視点でのアプローチを提示いただき、アカデミアと民間企業の効率的協働による臨床研究・治験の質の担保と効率化について新たな視点を得ることができた。

5. 参加者の状況

従来の on-site で当日受付のみの参加と異なり、今回は完全 Web 形式、事前参加登録方式のみで地方会ホームページと学会本部から会員へのメール等で情報を周知・開催した。結果は、驚いたことに、中国・四国地域以外からも多数の参加者があり (中国・四国地区 121 名; 68%, 中国・四国地区以外 58 名; 32%)、従来の本地方会の参加者数を大きく上回った。また、中国・四国地区以外の県別参加者は、北

海道、東北、関東、東海、近畿、九州地区など、広く全国から参加いただくことができた (Figure 2)。さらに、参加者の職種別割合を見ると、薬剤師が最も多く 28%、次に看護師 15%、医師と臨床検査技師がそれぞれ 10%、その他が 37%であった (Figure 3)。その他の職種の参加者 64 名の内訳は、臨床研究コーディネーター 30 名、治験関連 17 名、教育関連 9 名、IT ベンダー 3 名、財団職員と臨床研究関連が各 2 名、医療事務 1 名と多職種の皆様に参加いただいた。終了後期間限定の on demand 聴講者は 57 名であった。

6. 第6回に向けて

地方会会長として初めての試みである完全 Web 開催で、多くの方に参加いただけるか大変不安な日々だったが、お陰様で全国から過去 4 回の本地方会をはるかに上回る参加をいただいた。また、本地方会開催中、参加者ほぼ全員が最初から最後まで減少することなく聴講いただき、また、子育て中の参加者から自宅で子供の世話をしながら参加することができた、という思わぬ反響もいただいた。Web 開催であったことから、誰でも周囲の目を気にすることなく質問・発言できる地方会ならではの雰囲気・メリットも感じられた。今回の試みをポストコロナ時代にも継続して実施するか、ハイブリッド開催とするかなど、実験的要素

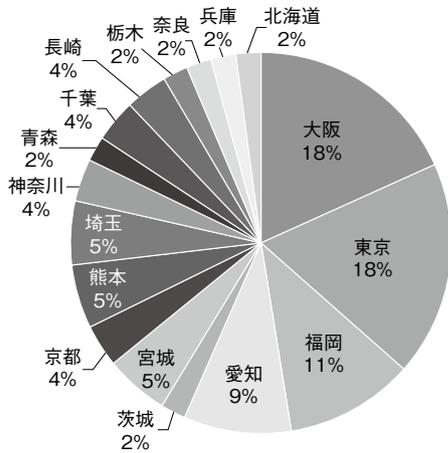


Figure 2 中国・四国地区以外の都道府県別参加者の割合 (n = 58)

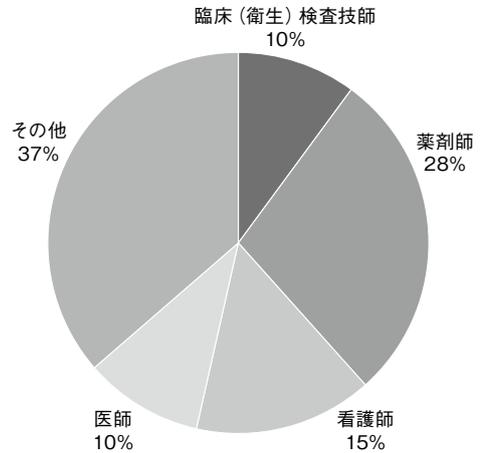


Figure 3 職種別参加者比率 (n = 179)

もあった今回の地方会開催について、本地区世話人会を中心に、開催経費を含めて検証することが地方会のさらなる活性化に重要と思われる。

第5回地方会開催に先立ち、中国・四国地区世話人会が開催され、次回第6回は香川大学医学部 形態・機能医学講座薬理学 西山 成教授が会長となり開催されることが決定した。

7. 終わりに

今回、会長である梅本がアカデミアから民間病院に異動

した直後の開催であったことで、業務委託会社と Web 開催のための委託会社担当者各 1 名の主に 3 名での開催準備となった。そのため、参加された皆様にご迷惑とご不便をおかけした。この場をお借りして深くお詫び申し上げます。また、開催にあたり日本臨床薬理学会本部、広島県・広島市、製薬企業、中国・四国支部世話人会の島根大学医学部和田孝一郎代表、事務局長の愛媛大学 永井将弘先生、広島大学病院薬剤部長 松尾裕彰先生はじめ多くの方々大変お世話になりました。あらためて厚く御礼申し上げます。